

女人成仏について ～ジェンダー平等をめざして～

日蓮宗勸学院講学職 妙興寺修徒
岡田 真水

はじめに ー大きな絵と小さな物語

対立する議論とどう取り組むか？ 児玉真美さん(日本ケアラー連盟)の提案:

ある問題について、まず世界では何が起きているのか、世の中は一体どこへ向かっているのか、「大きな絵」の中に問題を位置付けて考える。同時に、個々の人が生きている「小さな物語」に耳を傾けて、足元の現実問題を細かく解きほぐしていく

『見捨てられる(いのち)を考える』(安藤泰至・島菌進編 晶文社 2021)

社会のありようという「大きな絵」を見据えつつ、
個々の人の「小さな物語」にある困難と向き合う

1. 大きな絵：世界は何をめざしている？—SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGs(持続可能な開発目標):2015年9月国連サミットで採択された国際目標。

- ・2016-2030年まで国連加盟193か国すべての国すべての人が取り組むべき目標
- ・共通認識:世界は危機に瀕している
- ・「誰一人取り残さない(leave no one behind)」社会をめざす



1. 1 仏教界と SDGs

WFB(World Fellowship of Buddhists 世界仏教徒会議)東京大会(2018年11月)

「東京宣言(慈悲の行動)」仏教界が一丸となって SDGs の実現を支援していくことを表明

1. 2 日蓮宗と SDGs

日蓮聖人降誕 800 年慶讃事業「SDGs17の目標にちなんだアートワーク」

(<https://www.nichiren.or.jp/information/update/20210925-5685/>)

身延山久遠寺は報恩閣と祖師堂の間にエレベータ設置。「当山では、引き続き SDGs の基本理念でもある「誰一人取り残さない」社会を目指し、共栄運動を推進してまいります。」

2. ジェンダー平等のための小さな(?)物語

2. 1 SDGs17 の目標と 169 のターゲット

SDGs 目標 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う。
ターゲット 5.1 女性に対する差別の撤廃

2. 2 浄土教の女人往生におけるジェンダー的問題

阿弥陀佛の本願は、提婆達多と女性に対して阿弥陀の浄土への道を閉ざしている。
浄土宗・浄土真宗の所依の経典『無量寿経』 Sukhāvati-vyūha(『佛説無量壽経』
(No. 360 伝 康僧鎧 252 年 実は仏陀跋陀羅、寶雲共訳 421 年)

◇ 法藏菩薩第十八願(王本願)大正 12.268a26-28

「設我得佛。十方衆生至心信樂。欲生我國 乃至十念。若不生者不取正覺。
唯除五逆 誹謗正法」 「たとい我、仏を得んに、十方の衆生、至心に信樂して
我が国に生れんと欲し、乃至十念せん、若し生れずば正覺を取らじ。唯 五逆と
誹謗正法とをば除く」

五逆^①の罪を犯した者と正法を誹謗中傷する者の往生は未来永劫決して許されない

◇ 法藏菩薩第三十五願(女人成仏の願、女人往生の願)大正 12.268c21-24

「設我得佛 十方無量 不可思議 諸佛世界 其有女人 聞我名字 歡喜信樂 發菩提心
厭惡女身 壽終之後 復爲女像者 不取正覺 (設い、仏を得んに、十方の無量・不可
思議の諸仏世界、それ、女人有りて、我が名字を聞き、歡喜信樂し、菩提心を發
し、女身を厭惡せん。壽終りてのち、復た女像と為らば、正覺を取らじ。)」(世尊
よ。わたくしが覺りを得た後に、あまねく無量・無数・不可思議・無比・無限量の
諸仏国土にいる女人たちがわたくしの名を聞いて、きよく澄んだ心を生じ、覺り
に向かう心をおこし、女人の身を厭うたとして、(その女人たちが) (この世での)
生を脱してからふたたび女人の身をうけるようなことがあったら、その間、わたく
しは、〈この上ない正しい覺り〉を現に覺ることがありませんように。)

阿弥陀仏の名号を聞いて菩提心を起こした女性は、自分が女の身であることを嫌
悪し、一旦死んで、その後男に生まれ変わらなければ、阿彌陀の浄土である極樂浄
土へは往生できない。したがって、極樂世界には、一人も女性がない。

阿弥陀仏の前世の誓い(本願)の第 18 願には「唯除の文」と呼ばれる
除外規定が付されて五逆を犯したものは阿弥陀仏の救済対象から外さ
れ、第 35 願には女性のままでの往生はできないことが明記されている。

- 法華経の釈迦仏の本願は一佛乗の皆成仏を誓ったもの(法華経方便品)
「我本立誓願 欲令一切衆 如我等無異(わたしは前世で誓願を立てました。
『一切の衆生がわたしと同じで異なることがないようにしたい』と)」

2. 3 八敬法

八敬法は Mahāprajāpatī 摩訶波闍波提の出家の際に定められたとされる。しかし
このことが載っている一番古い漢訳経典『中本起経』は 3 世紀初め、パーリ文献
は 5 世紀以降に成立したもので新しい。大乘仏教ではないこれらの律に、現代の曹
洞宗や浄土宗は縛られ、女性僧侶は八敬法に従うべきであるとされている。住職を

^①五つの重罪:父殺し 母殺し 阿羅漢殺し 僧団の和合を破る 佛の身から血を流させる。阿弥陀仏
の本願は五逆・女身を救済対象から外している。

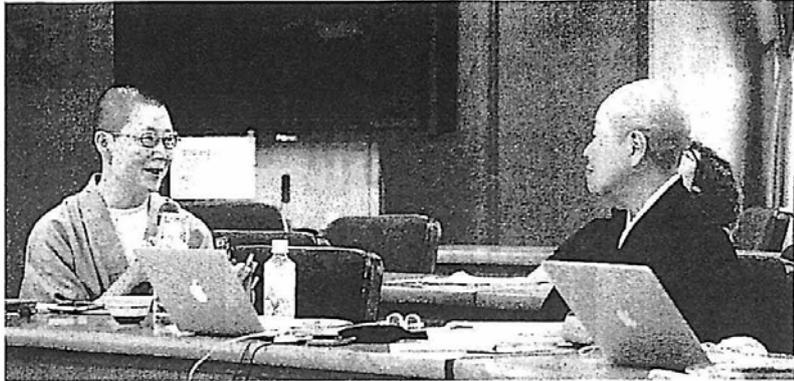
している寺の葬式の導師もできないことは問題である。

中 外 日 乗 反

2016年(平成28年)6月29日

龍谷大アジア仏教文化研究センター

龍谷大アジア仏教文化研究センター「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」研究班の今年度第1回ワークショップ「仏教の女性観を考える」ジェンターの視点から」が21日、京都市



八敬法廃止へ宗派超え活動

尼僧不平等、現場改善を

「研究の発展のみならず、現場の環境改善を」と話す飯島氏(左)と岡田氏

多文化共生でワークショップ

下京区の同大大宮学舎で開かれた。岡田真水・兵庫県立大名教授が「女性の成仏について」、飯島恵道・花園大講師が「ジェンダー不平等な現状に関する報告」と題しそれぞれ発表した。

日蓮宗尼僧の岡田氏は、女性も転生・変成男子として浄土にいくとの記述が『無量寿経』などの多くの経典にあると指摘。女性が身体を嫌悪し、捨てることを勧める教理を、どのように解釈すべきかと問うた。

曹洞宗の尼僧としての自身の体験を紹介した飯島氏は、尼僧は住職であっても自坊の法要で導師を勤めることができない宗門の規則や、「百歳の尼も初受戒の比丘を礼拝すること」など、尼僧が男性僧侶に対し守るべきとされる八敬法が不平等だと指摘。

「教団では対策が進みつつあるが、現場は改善されておらず、尼僧の側も現状を変えていこうという意識も見られないが、八敬法の廃止に向けた活動を続けていきたい」と語った。

(青山智耶)

◇『中本起經』下卷「瞿曇彌來作比丘尼品第九」(曇果・康孟詳譯 207年)

一には、比丘の大戒を持てるに、女人比丘尼は當に従ひて正法を受くべし。

二には、比丘僧大戒を持つこと半日已上なれば比丘尼は當に禮して之に事ふべし

三には、比丘僧・比丘尼は相與に並び居、同じく止まるを得ず。

四には、三月一處に止まれば、自ら聞く所見る所を相檢校し當に自ら省察すべし

五には、比丘尼は比丘僧の事を訟問する(=問い糺す)に聞見する所を以てするを得ず。若し比丘僧、聞見する所有って、比丘尼に訟問せば、比丘尼は即ち當に自ら省察すべし。

六には、比丘尼、道法を庶幾ふ有れば、比丘僧に經律の事を問ふを得ん。

七には、比丘尼、自ら未だ道を得ずして、若し戒律を犯さば、當に半月、衆中に詣りて首過(=罪過を自白する)自悔して、以て憍慢の態を棄つべし

八には、比丘尼は、百歳大戒を持つこと有りと雖も、當に新たに大戒を受けたる幼稚(⊙小)なる比丘僧の下坐に處り、謙敬を以て之が爲に禮を作すべし。是を八敬の法と爲す。…假し大愛道をして審に能く此の八敬の法を持たしめば、沙門と爲るを聽さん。」大正 4.158c17-159a4

◇ 驚くべき八敬法に対する見解

たとえば真言律宗のお寺のHPに次の様な記述がある。

「律蔵はもとより諸經典の諸説に従っても、「完全に八敬法を受持」せずし

て比丘尼になど決してなれはしません。八敬法を全く受持し、その上で具足戒をうけて初めて比丘尼です。日本で僧侶を生業とする者が、仏教の僧侶としてはまったく欠格で、世界では比丘(正式な仏教僧侶)として全然扱われないのと同様に、律蔵の規定を離れては、比丘尼として認められません。」

(小松庸祐「仏教徒とは何か(比丘尼)」旧 HP『真言宗泉涌寺派大本山 法楽寺』
<http://www.horakuji.hello-net.info/lecture/buddhist/bhikkhuni.htm>

*新 HP 覺應[小松庸祐]「戒律講説 比丘尼」『真言宗泉涌寺派大本山 法楽寺』
<http://www.horakuji.com/lecture/buddhist/bhikkhuni.htm>

3. 現場の「小さな物語」を解決するために日蓮聖人と法華経にお尋ねする

問題) 次の文章中疑問を感じる箇所に____、同意する箇所に____を引いてください。

女性も男性と同様に悟りを開き、仏(覺者)になることができるということ。

古来インドでは女性の地位を低くみており、釈尊も初めは女性が僧団に入ることに反対した。また女性には梵天、帝釈、魔王、轉輪王、仏の五種にはなれない五つの障害があるとされていた。

しかし、大乘仏教ではすべての衆生が仏になるという理念から、女性も男性に身を変えて成仏すると説いた。これを「變成男子」という。

たとえば『無量寿経』の阿弥陀仏第三十五願には、女性も浄土に往生して男性の身になるとあり、『法華経』には龍王の娘が文殊菩薩の導きによって男となり成仏したと説かれている。(『日本大百科全書(ニッポニカ)』『女人成仏』松本史朗)

3. 1 ニッポニカの解説文と日蓮聖人御遺文の比較

日本大百科全書(ニッポニカ)「女人成仏」[松本史朗]	日蓮聖人御遺文
女性も男性と同様に悟りを開き仏(覺者)になることができるということ	
古来インドでは女性の地位を低くみており釈尊も初めは女性が僧団に入ることに反対した。	・法華経已前の諸ノ小乗経には女人ノ成佛をゆるさず。『開目抄』
また女性には梵天、帝釈、魔王、轉輪王、仏の五種にはなれない五つの障害があるとされていた。	・小乗経には五障の雲厚、三從のきつな強しと嫌はれ、『祈禱鈔』
しかし、大乘仏教ではすべての衆生が仏になるという理念から、女性も男性に身を変えて成仏すると説いた。これを「變成男子」という。 たとえば『無量寿経』の阿弥陀仏第三十五願には、女性も浄土に往生して男性の身になるとあり、	・諸ノ大乘経には成佛往生をゆるすやうなれども、或ハ改轉の成佛ニシテ、一念三千の成佛にあらざれば、有名無實の成佛往生なり。『開目抄』 ・四十餘年の諸大乘経には、或あるいは歴劫修行にたへずと捨テられ、或は初發心時便成正覺の言も、有名無實なりしかば、女人成佛もゆるさざりしに、『祈禱鈔』
『法華経』には龍王の娘が文殊菩薩の導きによって男となり成仏したと説かれている。	・五障の龍女は蛇身をあらためずして佛になる。『撰時抄』

3. 2 提婆品の重要チェックポイント

- (1) 法華經に記される「女人の五障」はだれの意見？
- (2) 龍女は天部？女神？
- (3) 龍女は、いつ、どこで成仏したのか？
- (4) 龍女は、變成男子して、南方無垢世界へ行った？

龍女は即身成仏である。幼い女龍のままでも何も変わっていない。

☆ 『開目抄』 No.98 文永九年(1272)二月 佐渡塚原 定 pp.589-590

<p>龍女が成佛此レ一人にはあらず、一切の女人の成佛をあらわす。 <u>法華經已前の諸ノ小乘經には女人ノ成佛をゆるさず。</u> 諸ノ大乘經には成佛往生をゆるすやうなれども、或ハ改轉の成佛ニシテ、<u>一念三千の成佛</u>(p.590)にあらざれば、有名無實の成佛往生なり。 舉一例諸と申シテ龍女カ成佛は末代の女人の成佛往生の道をふみあけたるなるべし</p>	<p>提婆達多品の後段で、わずか八歳の龍女の娘が成仏を遂げるありさまを明らかにするが、それはただ龍女一人ではなく、すべての女性の成仏を表わす。(なぜならば)法華經以前に説かれたさまざまな小乘經典では女性の成仏を許さない。 またもろもろの大乘經典では成仏淨土への往生を許しているようではあるけれども、女身を改め、生を転じた後に成仏するという段階を経なければならず、一瞬の心に三千の法界が完全に具わるといふ法門に到達しての成仏ではないので、有名無実の成仏往生である。 「一つの事柄を挙げてもろもろの例を示す」といって、龍女の成仏は末代の女性たちが成仏往生をとげる道を初めて開いたものであるといえよう。</p>
---	--

☆ 『祈禱鈔』 No.113 文永九年(1972) 佐渡一谷 定 pp.673-674

<p>「而ルに靈山會上にして即身成佛せし龍女は、<u>小乘經には五障の雲厚</u>三從のきづな強しと嫌はれ、四十餘年の諸大乘經には、或いは歴劫修行にたへずと捨テられ、或は初發心時便成正覺の言も、有名無實なりしかば、女人成佛もゆるさざりしに、 設ヒ人間天上の女人なりとも成佛の道には望ミなかりしに、<u>龍畜下賤の身</u>たるに、女人とだに生れ、年さへいまだたけず、わづかに八歳なりき。かたがた思ヒもよらざりしに、文殊の教化によりて、<u>海中にして法師・提婆の中間、わづかに寶塔品を説カ</u>(p.674)れし時刻に、佛になりたりし事はありがたき事なり。一代超過の法華經の御力にあらずば、いかでかかくは候べき」</p>	<p>すなわち靈山の法華の会座において即身成仏した龍女は、たとえ小乘の經典で、五つの障さわりがあり、三つの従うべきことがあって強く嫌われ、法華以前の諸の大乘經典では、女は永い間の修行には耐えられないからといって捨てられ、あるいは華嚴經の「最初に菩提心をおこしたとき、すなわち正覺を成ずる」となる言葉も、有名無実で、女性が仏になることは許されていなかった。たとえ人間界や天上界の女人であつても成仏する望みはなかつたのに、龍という畜生で、女として生まれ、年齢もわずかに八歳であつた。だれも思いもよらないことだつたのに、文殊菩薩の教化によって、<u>海中において、仏が法師品と提婆品の中間に寶塔品が説かれた時刻に、仏になられた</u>ことは、いまだかつてないありがたい事であつた。仏一代の中で諸經に越えた法華經の御力でなければ、どうしてこんなことが可能になるうか。</p>
--	---

◇ 『撰時抄』 No.181 建治元年(1275)六月 身延 定 pp.1003-4

<p>「五障の龍女は蛇身をあらためずして佛に(p.1004)なる。」</p>	<p>五障の八歳の龍女は蛇身のまま即身成仏した</p>
--	-----------------------------

◇ 『千日尼御前御書』 No.302 弘安元年(1278)七月二十八日 定 pp.1541-1542

<p>「一切信_ッて信ぜられざりしを第五ノ卷に即身成佛と申_ス一經第一の肝心あり。</p> <p>譬へばくろき物を白くす事漆を雪となし、不淨を清淨になす事、濁水に如意珠を入_レたるがごとし。</p> <p>龍女と申せし小蛇を現身に佛になしてましノ_キ。</p> <p>この時こそ一切の男子の佛になる事をば疑_フ者は候はざりしか。</p> <p>されば此經は女人成佛を手本としてとかれたりと申_ス。</p> <p>されば日本國に法華經の正義を弘通し始メましませし、叡山ノ根本傳教大師の此事ヲ釋シ給_フには、「能化所化俱ニ歴劫無シ、妙法經力即身成佛_ス」等。</p> <p>漢土の天台智者大師法華經の正義をよみはじめ給_ヒしには、</p> <p>「他經ハ但、男ニ記シテ女ニ記セ不_レ乃至、今經ハ皆記_ス」等云云。</p> <p>此は一代聖教の中には法華經第一、法華經の中には女人成佛第一なりとことわらせ給_フにや。</p> <p>されば日本一切(p.1542)の女人は法華經より外の一切經には女人成佛せずと嫌_フとも、法華經にだにも女人成佛ゆるされなばなにかくるしかるべき。」</p>	<p>すべて仏の説であるので信じてきたが、確証がないので本当に信じることができなかつたが、第五卷の提婆品で、即身成仏という法華一經の中で第一の肝心な法門がある。</p> <p>例えば黒い漆を雪のように白くしたり、不淨の濁水に清淨な如意宝珠を入れたりしたようなものである。</p> <p>龍女という小蛇を現身に即して仏になさしめられた。</p> <p>この時こそすべての男子が仏になることを疑う者はいなかったであろう。</p> <p>だから法華經は女人成仏をお手本として、一切衆生の成仏が説かれた經典なのである。それゆえに日本で法華經の正義を弘め始めた比叡山の根本である伝教大師は、この事について、「仏に成つて法を説いた龍女も、その説法を聞いて仏となった衆生も、共に永い間の修行を必要とせず、妙法の經力によって即身成仏した」と法華秀句の中に解説している</p> <p>中国の天台智者大師は、法華經を正しく解釈された法華文句の中で、</p> <p>「法華經以外の經では、ただ男の成仏については述べられているが、女の成仏については記していない。法華經では男女ともに成仏が説かれている」とある。</p> <p>これらの説は仏一代の聖教の中では法華經が第一に優れた教えであり、その法華經の中では、女人の成仏のことが第一であるといわれているのであろう。</p> <p>そうだとしたら、日本中のすべての女性は法華經よりほかのすべての經で、女性は成仏できないといって嫌われても法華經によって女性の成仏が許されるのであれば少しも苦しく思うことはないのである。</p>
--	--

3. 3 サンスクリット版 (Saddharmapuṇḍarīkasūtra)

植木雅俊 2018『サンスクリット版縮訳 法華経 現代語訳』(角川ソフィア文庫) pp.212-218

重要なのは動詞の形。(一部訳を変更している)

マンジュシュリー(文殊):海中では法華経だけを説いて化導した。

智積:この深甚微妙な経典を理解して正覚を得られる者はいるだろうか

文殊:いる。サーガラ龍王の王女(龍女)だ。

智積:一瞬のうちに覚るとは信じられない

龍女登場:自分が正覚を得ることは仏が証人である。

舍利弗:それは信じられない。ただ一人の女性も正覚のくらいに達したことはない。
女人には5つの障りがある(古い仏教の説)。

龍女は如意宝珠を、素早く仏に献納。このやりとりよりも、なお一層速く正覚を得ることができる者であると述べる。ダメ押しに、男性の器官を備え、一般のものたちが思う菩薩の姿に自分を見せかけ、南方無垢世界に行って、仏の特徴である三十二相八十種好を身に備えて説法をしているように見せた。それを見てやっと皆は納得する。智積も舍利弗も黙ってしまった。

龍女は、自らの神力でもって、一般の者たちの思い描く仏の姿(三十二相を備えている男性の姿)に自分を見せかけ(samdarśayati)、これを見た人々はようやく龍女の成仏が理解できた。

日蓮聖人は法華経以前の大乗仏教が説く女人の成仏を「改轉の成佛」(「姿を改め」「転生する」ことによって成仏を得る)と呼ぶ(『開目抄』)。龍女が変成男子した、と言う記述は遺文にはない。

『法華経』の八歳龍女成仏は、文殊菩薩から『法華経』の教えを聴いたその場で、身体を何ら変ずることなく、転生することもなく、直ちに成仏(=一念三千の成仏)したことをストレートに説いたもの。

「即身成仏」の例は、『法華経』以前の経典中にも『法華経』以後にも存在しない。法華経は唯一無二の皆成仏と即身成仏を説いた経典だった。

【メモ欄】 寺族と共に「小さな物語」を考えてみよう

寺の内外でジェンダー不平等はないだろうか？